

## 会 議 録

会議の名称	平成28年度 第1回茨木市産業振興アクションプラン推進委員会
開催日時	平成28年 5月 20日 (金) (午前・午後) 10時 30分 開会 (午前・午後) 正午 閉会
開催場所	茨木市役所 本館7階 会議室
議長	野口 義文 氏 (立命館大学 研究部・産学官連携戦略本部)
出席者	伊津田 崇氏 (中小企業診断士)、大川 智恵子氏 (公募市民)、小牧 義昭 (北おおさか信用金庫)、高石 秀之氏 (工業事業者)、辻田 素子氏 (龍谷大学 経済学部)、西村庄司氏 (農業事業者)、野口 義文氏 (立命館大学 研究部・産学官連携戦略本部)、藤田 紫氏 (茨木商工会議所)、前田幸子氏 (商業事業者)、山田 理香氏 (公募市民) (10人)
事務局職員	徳永商工労政課長、吉田商工労政課課長代理、河原商工労政課主幹 武部商工労政課職員 (4人)
議題(案件)	(1) 趣旨説明 (産業振興アクションプラン推進委員会について) (2) 委員長・副委員長の選出 (3) 会議の公開について (4) 産業振興アクションプランについて (5) 今年度の取組について (6) 提案公募型補助事業の審査について
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1 今年度の取組について</li> <li>・資料2 提案公募型補助制度の審査について</li> <li>・参考 茨木市産業振興アクションプラン推進委員会 委員名簿</li> <li>・参考 茨木市産業振興アクションプラン推進委員会について</li> <li>・茨木市産業振興アクションプラン (平成28～32年度)</li> <li>・茨木市産業振興アクションプラン (平成28～32年度) 概要版</li> </ul>

## 議事の経過

### 1 開会

事務局：開会のあいさつ  
委員紹介

### 2 趣旨説明（産業振興アクションプラン推進委員会について）

事務局：（参考資料をもとに説明）

### 3 委員長・副委員長の選出

委員長に野口委員、副委員長に伊津田委員を選出

### 4 会議の公開について

事務局：市の指針に則り、会議は原則公開とする。  
会議録は要約したものを公開する。（今年度より発言者の個人名を記載）

<質疑・意見等>

辻田委員：（今年度から、議事録に発言者の個人名を記載するという説明を受けて）  
発言者の個人名を記載するように（市の公開指針が）改訂されたのは何か理由があるのですか。

事務局：理由については確認できていません。  
確認後、委員の皆様にご回答させていただきます。

### 5 産業振興アクションプランについて

事務局：（産業振興アクションプラン 概要版 をもとに説明）

<質疑・意見等>

高石委員：ビジョンやアクションプランの策定後は、行政や他の事業者とつながる機会も増え、「1人で事業をしている」という感覚が軽減され、ありがたいと感じています。  
アクションプランの内容も、回を重ねるごとに具体性を帯びてきていると思います。  
山田委員：（高石委員のお話は）とても良いことだと思うので、それが市民にも上手く伝われば良いと思います。

### 6 今年度の取組について

事務局：（資料1 をもとに説明）

<質疑・意見等>

辻田委員：全体的に「ゆるい」取組が多いような印象を受けるのですが、新しいアクションプランに基づく初年度だから、ということでしょうか。

各取組の今後の展開（見通し）は、どのように描かれているのでしょうか。

事務局：(1)女性向け 起業へのファースト・ステップセミナーについて

この取組は“気付き”を与えることを目的としており、「これを受講したから起業できる」とは我々も考えてはいません。

まず最初のステップとして起業に関するニーズの把握や起業志望者のグルーピングなどを行い、次年度以降につなげていきたいと考えています。

今後5年間で、随時「次にどういった仕掛けが必要か」をこの委員会にも諮りながら検討を重ね、起業へつながる仕組みを構築したいと考えています。

### (3) 産学連携の推進に向けた 産学交流サロン

彩都にバイオサイエンス関連の企業が多いこともあり、これまで理系の研究分野での産学連携が進んできていますが、今後は商業者等にも、大学の知見を活かした取組（デザイン・マーケティング等）を広げていきたいと考えています。産学交流サロンは、そのための“とっかかり（第1歩）”と考えています。

委員長：「ゆるい」というのは「とっつきやすい」という側面もあると解釈できますので、市民目線で「ゆるい」取組を進めながら、まずは関係者の「参加・参画」意識を高めていくことが重要と思います。

小牧委員：一気に成果を出すことは難しいので、まずは“きっかけ”をつくり、続く段階で成果を出していく、という考え方は良いと思います。

(5) 商店街の活性化に向けた取組 (6) 農商工連携に向けた取組は、難しいと思います。私もいろいろと取り組んでいますが、商店街の活性化には「店主の方の意識改革」が必要ですし、農商工連携では「ビジネスベースでできるか」という部分で、流通を担う事業者がなかなか見つかりません。

そういう部分でも、はじめは事業者の方が出会うきっかけづくりを進められれば良いと思います。そこで、実施していることを、いかにたくさんの事業者の方に知っていただくか、という広報が重要になってくると思います。

伊津田委員：市のアドバイザーとして関わっている事例をいくつか紹介します。それぞれ「商店街の活性化」「農商工連携」のテストケースになるのではないのでしょうか。

#### ①「ガンバ大阪 伝説MAP」

学生の協力(取材・編集)を得て、市内商店街の店舗を紹介するマップを作成。

#### ②「商業団体連合会の秋のイベント」

例年は市民会館前で「茨木童子まつり」(夕涼みイベント)を実施。

今年は防災をテーマにイベントを企画中。

#### ③「おいもスイーツフェア」

市内で育てたサツマイモを活用して、市内の店舗で商品を開発・販売。

西村委員：(6) 農商工連携について

農業に関しては、「専業」と「兼業」では目的がまるで違うので、取組のターゲットの絞り方がポイントになると思います。

専業の場合は「いかに商売につながるか」を考えるので、兼業や趣味で農業をしている人とは、切り分けて考えないといけないと思います。

そうしなければ、専業の人は「(“ゆるい”取組には) 付き合ってもらえない」となるし、兼業や趣味の人は「お金を儲けることばかり追求しても…」となってしまうと思います。

大川委員：私は趣味で農業を楽しんでいる側ですが、今後、山間部では耕作放棄地が増えてくると聞いていますので、新規就農の若者を増やしていく政策を市も考えてもらいたいと思います。

欧米ではある程度広まっているのですが、日本でも有機野菜(オーガニック)に対する消費者意識が高まってきています。有機野菜は価格差もありますので、新規就農者でもビジネスになる可能性があるのでは、と思います。

事務局：現在、農林課で、山間部にある市の用地において、年間数回のスクール形式で若者に農業に関わってもらう事業の予算化に向けて動いています。

前田委員：(1) 女性向け 起業へのファーストステップ・セミナーについて

敢えて「女性」にターゲットを絞っているのは「女性にもっと活躍してほしい」という意図があるんだと思いますが、女性の人生設計が時代とともに変化しているなかで、リアルな視点が少し足りないような気がします。

「適齢期で結婚して専業主婦になる」という女性の人生設計が一般的だった昔に比べて、現在は、女性でも1人で生きていくことを考える方も増えていると思います。

働く女性が増えています。男性に比べて女性は「1つの企業に定年退職まで在籍する」ことが、より想定しにくいという状況のなか、「一生の仕事にできる(1人で生きていくための)起業」という視点で、茨木市がどのようなサポートができるか、ということだと思います。

何もないところから「こんなビジネスをしてみたい」という思いをサポートする初歩的な取組も大切ですが、そればかりではなかなか実を結ばないような気がします。

もっと現実的に、現在働きながら将来の生活を見据えて、結果に結びつくようなヒントを探している女性に対して、手を差し伸べることも求められているのではないのでしょうか。

藤田委員：起業に対してどういったアプローチをするか、がポイントだと思います。

なんとなく「何か事業を始めてみよう」という段階なら「起業しているいろんなことができるんだ」という楽しいイメージで良いと思うのですが、「ご主人の扶養から外れて稼ぐ」となると、もう少し段階を上げた内容にすべきだと思います。

初歩的なセミナーを1度実施して(起業を志す女性の)裾野を広げ、更にレベルアップを目指す人は次のステップにつながる手法があれば、効果的だと思います。

商工会議所では、平成14年から創業塾を開催しています。当初は参加者のうち女性は1割程度でしたが、7～8年前から増え始め、現在は半分程度です。ただ、参加者の中でも男性は比較的早く開業届を提出して事業をスタートされるのに対して、女性は開業届を出さずに細々と事業をされている方が多いので、柔軟にステップを踏んでレベルアップしていただければ、と思います。

事務局：女性の起業セミナーについては、2回予定しているうちの1回は就労されていない主婦の方を主な対象として平日の午前中に、もう1回は就労されている方を主な対象として日曜日をメインに、実施を検討しているところです。

藤田委員：(7)子ども向け起業セミナーについて

個人的に興味深く感じます。将来の職業は、どうしても家庭環境に左右される傾向があると思いますので、子どもの頃からいろんな仕事があることを知ってもらい、機会づくりに取り組むことは重要だと思います。

委員長：「起業セミナー」というよりは「興味・啓発セミナー」という内容だと思います。また、タイトルは重要なので事務局でも検討してもらえれば、と思います。

## 7 提案公募型補助事業の審査について

事務局：(資料2 をもとに説明)

<質疑・意見等>

伊津田委員：(8月に2回目の募集を行うとの説明を受けて) 予算に達するまで3次募集・4次募集みたいなものがあるのでしょうか。

事務局：8月頃を目途に追加募集を行う予定ですが、特に産学連携スタートアップ支援事業補助金については、研究開発・商品開発などある程度の事業期間が必要という部分がありますので、それ(8月)以降の募集は予定していません。

事務局：それでは、以上を持ちまして委員会を閉会させていただきます。  
ありがとうございました。